



上智大学創立 100 周年
上智短期大学創立 40 周年
上智社会福祉専門学校 50 周年



上智大学テレビセンター

No. 38

1. テレビセンターの開設

上智大学は1966年4月、テレビセンターを開設した。大学としては画期的なテレビ制作スタジオの開設により、文学部新聞学科は本格的にテレビ教育・研究に乗り出し、活字ジャーナリスト育成に加えて放送人材を養成していく土台を築いた。開設当時は、3号館5階の2つの教室を使った仮設スタジオで、機材は数台の受像機、ビデオテープ、カメラというつましい始まりだった。3年後には、6号館の1階と地下1階に合計290㎡(スタジオは105㎡)の本格的な施設として誕生した。大学のテレビ番組制作施設としては、日本大学が1958年に短期学部の放送科の施設として開設した264㎡のテレビスタジオに次ぐものと思われる。



6号館テレビセンターでの実習風景(1971年)

1953年、日本ではNHKを皮切りに民放のテレビ局も開局し、テレビ時代を迎えた。テレビ受像機も急速に普及し、1963年には91%の家庭に白黒テレビが浸透していた。一方、本学には戦前の1932年に日本初の新聞学科が開設されていた。テレビの普及を受け、1950年代後半からは「放送論」や「実習」、「放送演習」などをカリキュラムに導入していた。

本学でのテレビ研究を進言したのは、ペドロ・アルペ神父(1958年～1965年までイエズス会日本管区長、1965年～1983年までイエズス会第28代総長)である。テレビがジャーナリズムの中で重要な役割を果たすようになるだろうと予測したアルペ神父の指示を受け、本学大学院で神学修士を取得したホセ・M・デベラ神父は米ミシガン大学に渡りマスメディアを研究し、1967年に博士号を取得した。日本の教育テレビについての博士論文を書くために東京で研究中、本学の教員としてテレビセンター開設を指揮した。

現在スペイン在住のデベラ神父は、「当時、上智大学のテレビセンターのような施設を持った大学はあまりなかったので、他大学からたくさんの教授が見学に来ました。学生も大変わくわくして授業を取りました」と述懐した(2013年4月、スペインからの電子メールより)。



テレビセンターで学生を指導するデ・ベラ教授(1971年)

60年代後半には「放送演習」「テレビ制作」が新聞学科の必修科目となり、テレビリテラシー教育は本格化した。

「実際に番組を制作することにより、表現力を養い、創造の喜びを味わい、なおかつ、グループ活動を通じて、学生の人間の進歩を図りたい」と、当時テレビセンター室長だったデ・ベラ教授は、「上智新聞」(1966年11月1日付第12号)で語っている。

2. 技術の進歩に伴う改修とインターネット時代への対応

1969年に6号館に移転したテレビセンターは、当時の技術を活用した本格的なスタジオとコントロールルームを備えていた。技術の進展に伴い、2002年にはデジタル化に対応するため設備を全面改修した。

2005年に2号館が竣工すると、テレビセンターはこの地下1・2階に移転。地下1階のコントロールルームから、吹き抜けになっている地下2階のスタジオの様子を見ながら、番組が収録できるようになっている。

2009年には、地上波テレビ放送のデジタル化に対応し、HD（高精細度, high definition）で収録、編集できる機材を導入した。この結果、現在のスタジオシステム、周辺機器や編集用機材、ロケーション機材等はデジタルHD化されている。ノンリニア編集機7台を擁し、編集もコンピューター上で行われている。

新聞学科で「テレビ制作」や「表象文化論」などを担当する碓井広義教授は「誰でもYouTubeやUSTREAMで映像を発信できるようになったインターネット時代には、発信するコンテンツが大事で、『映像で語る』には映像の文法を学ぶ必要がある。それには座学だけでなく手を動かして、頭の中にあるイメージを映像で伝える実践をすることが重要になってくる」と現在のテレビセンターの意義を述べた(2013年5月)。

2013年度を例にとると、テレビセンターは、新聞学科の「演習」や「テレビ制作」の授業に利用されているほか、学芸員課程の「視聴覚教育」の授業にも使われている。

オープンキャンパスの時には「テレビ制作」の授業は人気の高い体験授業になっており、これをきっかけに新聞学科を志す受験生もいるという。また、学内で行われる入学式、学位授与式、講演会の収録や、語学教材を制作するなど、さまざまなかたちで支援を行っている。



2号館のスタジオ



2号館地下1階のコントロールルーム(2006年)

3. マスコミ・メディア界への人材の輩出



2号館地下2階のスタジオで番組制作(2005年)

本学新聞学科の卒業生の4割近くが放送、新聞、出版、広告などメディア界に就職している。『2014年版大学ランキング』（朝日新聞出版、2013年）では、女性アナウンサーの出身校として慶応義塾大学、早稲田大学、法政大学に次いで第4位であった。

「大学の規模を考えると本学は多くの人材を放送界・マスコミ界に輩出しており、日本の放送人材育成にもテレビセンターは大きな貢献をしている」と碓井教授は語った。